

平成28年度岩手県立図書館協議会会議録

- 1 期 日 平成28年11月24日（木）13：30から15：30
- 2 場 所 岩手県立図書館 研修室
- 3 出席者
 - (1) 協議会委員
尾澤 厚子 委員 小山田泰裕 委員 斎藤 純 委員
澤口 杜志 委員 下机 暁美 委員 中尾 康朗 委員
箱石恵美子 委員 吉丸 蓉子 委員
 - (2) 事務局
 - ア 県立図書館
工藤館長 平井副館長 伊東主査 日影主査
 - イ 生涯学習文化課
千葉主任社会教育主事
 - ウ 指定管理者（図書館業務担当）
菊池総括責任者 村松副総括責任者 北條副総括責任者 似内サービス部長
安保総務部長
- 4 会議の概要
 - (1) 開 会
岩手県立図書館管理運営規則第10条第2項に基づく会議の成立を報告
 - (2) 挨拶
工藤館長
 - (3) 会長選出
中尾康朗委員が選出された
 - (4) 報告及び協議
 - ア 県立図書館利用状況等について
事務局から資料No.1及び資料No.2に基づき説明した。

【質疑】

- (尾澤委員) 昨年度の来館者アンケート結果で、「本棚の表示や館内案内図の分かりやすさ」及び「本などの資料の探しやすさ」に関する項目について、少数ではあるが「不満」等という回答がある。このことについて、要因分析や今年度の運営への生かし方など、取り組み状況についてうかがいたい。
- (北條副総括責任者) 不満の正確な分析というところまでは至っていない。この項目は毎年同じような割合で「不満」等と回答があり、以前より課題と考えている。これについては、年間45万人以上の利用者が来館する、図書館の閲覧スペー

スがワンフロアではなくてツーフロアである、蔵書が約75万冊あるうち書庫に約60万冊ある、というような状況等も含めて、ゼロにするのはなかなか難しいと考えているが、毎年少しずつでも工夫を凝らしていこうと取り組みはしている。昨年度実施したことでは、本棚の番号掲示を揃えることや、蔵書検索をした結果、本の所在が表示される請求票について、初めてこの図書館を利用される方には本の所在がなかなかわかりにくい表示になっていたため、所在を明確に表示するようにしたことなどがある。毎年少しずつではあるが、書架にないものを探し回るようなことがないような工夫等に取り組んでいる。

(尾澤委員) 図書館の取り組みについて、このようにまとめたアンケートだけではなく、日常的に利用者から記入していただく用紙を館内に置き、焦点を絞って意見をいただくなどのさりげない取り組みでも利用者のニーズが把握できると思ひ質問をした。

(澤口委員) 図書館のガイドツアーを来館者に向けて行っていると思うが、短い時間で構わないので、各コーナーやフロアの案内を定期的に行ってはどうか。当たり前と思われることを利用者は意外に知らないことが多いと思う。

(菊池総括責任者) 取り組むべき課題のひとつと考える。

(似内サービス部長) 現状では、年度初めに、初めて県立図書館を利用する方を対象としたスタートツアーというものを実施している。また、コンシェルジュが、インターネットの使い方をご存じない方等を対象に、時間を設けて案内をしている。ただ、定期的ではなく、年度初めに初めてお越しいただく方、それからもう少し詳しく知りたいという方のためのツアー、または規模の小さいセミナーのようなものを設けている。頂いた意見を、今後コンシェルジュの活動に生かしていきたい。

(澤口委員) 大げさなことではなく、日常的な利用者への対応の中で、例えば10分程度、1週間に1回等、利用の案内を続けることにより、この機会に利用者が図書館の利用についてさらに質問等をできるようになると思った。

(似内サービス部長) 施設の案内は月に2度ほど見学を兼ねて行っているところではあるが、とても重要な意見を頂いた。

(菊池総括責任者) コンシェルジュはスタッフの中で一番多くフロントでお客様に対応している。定期的なイベントだけではなく、日常的に受ける各種案内の要望にも対応しているところではあるが、提案のあったところも検討していきたい。

(下机委員) 来館者アンケートの項目で、「当館が指定管理者制度を導入し運営されていることをご存知ですか」では、76%の方が「いいえ」と答えていること、また「当館を運営している指定管理者が(株)図書館流通センター(TRC)であることをご存知ですか」では、85%の方が「いいえ」と答えているところで、管理者として多少は宣伝してもいいのではないかと思った次第である。

それから、このアンケートが年1回1カ月間の期間で546名の方から回答があったということだが、果たして年1回のこのアンケート結果で本当に信用できるのか、例えば年4回にするなど回数を増やし年間を通してアンケート

とって見たらどうなのか、人数も単純に掛ける4倍で2,000人ぐらいの人数だったらどんな結果が出るのかというところで、アンケートの方法や回数等について考えていただけたらと思ったところである。

(北條副総括責任者) アンケートの方法や回数等について、年1回、期間も1カ月間で、いただいた回答が約500という現状だが、この適否は、以前このアンケートを使って分析をしてくださった県立大学の先生や他の先生にも伺い、統計学的にはこのサンプルの抽出の仕方というのは間違いではないというような意見を頂いているところである。アンケートを年間通して実施するという点については、他の業務もありなかなかそこまで手が回らないところもあって、1カ月という期間で実施している。この1カ月という期間は、できるだけ、例えば夏休みとか冬休みという利用の動向がいつもと異なるような時期は避け、平均的な利用状況を見ることができる時期ということで毎年10月に行っている。去年は図書館システムの更新等もあったため11月から実施したが、平均的な利用状況を見ることができる時期を選んで実施している。

それから、この約500の回答を集めることについて、1カ月間行っているが、ただカウンター等にアンケートを置いてもなかなか回答には協力いただけないというところがある。何も手段を講じず、ただ置いてあるだけでは集まってくる回答は10件程度である。500件のサンプルは必要であることから、1週間程度を使って特別にスタッフから利用者にアンケートを配付し、回答をお願いしている。このような対応で、何とかアンケートの実施期間内に必要なサンプルを集めているところである。ただ、確かに、夏休みや冬休み期間を対象としたアンケートを実施しなくてよいのかというところは今後の検討課題だと考えており、頂いた意見も参考にしていきたい。

なお、アンケートだけではなく日常的に利用者が意見等を記入できる用紙を館内に置くことについて、意見をお寄せいただくための用紙は既に館内には置いてあり、日頃からたくさんの方々の声を頂いているところである。

(斎藤委員) 来館者アンケートについて、テレビの視聴率の例があるが、抽出したサンプルというのは有効であるため大きく外れた結果にはなっていないと思う。2,000の回答を集めてもやはり同じような結果が出ると思う。ただ、実施が夏休み期間中だと、中高生の声が反映されることが予想されるため結果は変わってはくるだろうと思われるが、その対応で無駄に仕事量を増やすのではない形でアンケートを実施することはいいと思う。

(中尾会長) 斎藤委員が話したようにランダムということが確保されていれば少数でも問題はないと思う。このアンケートに関して私が思うのは、来館されている方だけを対象としているので、普段図書館を使わない人たちのニーズをどうやって掴むかということも今後検討していくとよいのではないかなと思う。一例として、例えばウェブなどを活用するような方法もあるという気もした。

(吉丸委員) 入館者数と貸出者数について、27年度は少しずつ減少していて気になる場所と思ったが、以前、どれだけの入館者数や貸出者数が適切な数字なのかとても解り難いため、他県と比較できる資料のようなものがあればとても参

考になるといったようなことを話した経緯があるが、今回は資料として都道府県の図書館の統計があったので触れたい。これを見ると岩手県は本当に素晴らしい結果で、とても努力していることがよく解り、岩手県立図書館に敬意を表したい。

(箱石委員) レファレンスの件数が伸びていることについて、私も図書館の現場サイドから話をすると、協力レファレンスで、市町村で手に負えないようなレファレンスを県立図書館に対応をお願いし本当に助かっている。この協力レファレンスだけではなく、一般的なレファレンスの件数がかなり伸びており、口頭の受け付けがその9割以上というようなことであるが、何かレファレンスで工夫していることがあるのか、また、職員を増員されてその体制を充実しているのか伺いたい。

(北條副総括責任者) レファレンスは、昨年この会でも件数が増えていることを評価等いただいたところである。件数が増えている要因等として、一つは、きちんと記録をとるということを職員に徹底している。例えば、園芸の本が読みたい、あるいは今度冬になるので庭の草木を剪定してから冬を迎えたい、そういう本はありますかという問い合わせを受けたスタッフはすぐに案内をすると思うが、その対応から戻ってきた時に必ず件数の記録をすること、正の字を1本書き加えていだけでいいからきちんと記録することを言っている。その結果、県立図書館に対したくさんの質問をいただき、それに答えているということがこの数字から実態としてわかってきていると思う。

それから、職員の体制等は、採用の段階でできるだけ司書資格のある方を雇うようにして、その後は研修の参加等できざまなスキルを学ぶことができるような工夫はしている。

なお、県立図書館の指定管理者となり10年目を迎え、ベテランの職員というものも私どもの中で生まれてきており、日常のOJT等も進めながらたくさんの方々の利用者の方々に対応させていただいている。

(箱石委員) 本当に一生懸命努力され頑張っているらっしゃると思う。そしてレファレンスによっていろいろな利用者の幅が広がることもあるし、図書館への関心も高まる一つというようなことで、市町村の図書館としても参考にしたいと思う。

(菊池総括責任者) 頑張っているものの一つにパスファインダーというものがある。例えば子供向けでは、妖怪について調べたい時はこうすればよいという内容の案内のパンフレットである。大人向けも様々ある。岩手の地名を調べるにはとか、健康情報を調べるにはとか、この6年間で、一般向けで99、子供向けで20数回も作っている。そういった案内でお客様自身にもお調べいただけるのだが、図書館は調べ物をするところだということが定着してきていると思っている。

それから、なかなか大人向けの講座はできないが、子供向けの調べ物をする入門講座を実施している。

イ 県立図書館事業実施状況等について

事務局から資料No.3及び資料No.4-1、4-2に基づき説明した。

【質疑】

(斎藤委員) 去年、岩手県立美術館の荒井良二展の時に、連携したいろいろな事業を県立図書館で実施した。今、ブラティスラヴァコンクールの展覧会を、県立美術館で開催しており、県立図書館ではこの展覧会に関連した小さなコーナーを設けているようだが、連携した取り組みを何か実際に行っているか伺いたい。

(菊池総括責任者) ブラティスラヴァコンクールに関連した県立美術館との連携展示を児童コーナーで行っている。

(斎藤委員) それだけか。

(菊池総括責任者) それ1点である。

(斎藤委員) 荒井良二展の連携でいろいろな事業を行ったのは余り効果がなかったか。

(菊池総括責任者) 効果があった。

(斎藤委員) 効果があったのであれば、今回も去年の荒井良二展クラスのことをやってもよかったのではと思う。ただ、蔵書の関係で、ブラティスラヴァコンクールに関係する絵本が県立図書館にあればいいかなと思った。

(似内サービス部長) 所蔵しているもの全作品を展示した。

(斎藤委員) もう一つは、児童書のコーナーではなく、大人のほうに展示してほしいかなと思う。県立美術館から提供を受け図録を県立図書館に置いて見られるようにすると、あっ、こんなことやっているのか、と県立美術館に行く人も出てくるのではないかな。宣伝になるからと言えば県立美術館から図録の提供を受けることができる。せっかく去年荒井良二展の時に、県立美術館といい連携をした事業を行っているのに、ちょっともったいないと思った。

(菊池総括責任者) 参考とさせていただきます。

(吉丸委員) 企画展に関わって、毎回こんないい企画展を行っているのに、目に付かない回もあるので、なかなか周知されていないのでは、と残念に思う。ただ、それが市町村立図書館等に巡回されていて、15カ所、20カ所と巡回されていることはとてもいいことだと思う。そこで、実施した企画展の図録とか目録について、企画展の終了後も見ることができるよう準備されていれば、後で活用するようなことも随分できるのではないかなと思う。せっかく行った企画展の、そのままの資料が後で整えることができるような方途を講じていただけたらと思う。私は学校で先人教育を行っており、例えば大島高任について調べたいと思っても、まとまった資料を先生方が一つ一つ探すことは大変である。それが、関係する資料について大体このようなものがどこにあるという一覧表とか目録になっていると、とても助かると思う。そういった目録等が実施した企画展ごとにあると、利用者にも随分便利にお使いいただけるのではないかなというふうに思った。

(菊池総括責任者) 目録は用意している。利用者から申し出があった時に提供している。

あと、先人教育の話について、事業実施状況等の報告の中で、子ども向け郷土資料を作成したという話をしたが、これは新渡戸稲造、後藤新平、野村胡堂といった先人の資料である。PRに努めていたところ、ある学校からニーズがあり、子ども向け郷土資料を提供したこともある。不十分ではあるが、そういった取り組み等に努めているところである。1年間に6回ほど企画展を行っているので、資産の再活用ということで真剣に考えていきたい。企画展に限らずミニ展示等もリストをつくっているので、アンコールで出すこともある。いずれ資産としては形成しているので、1回きりのものにはしないという考えである。

(澤口委員) 斎藤委員のおっしゃったように、荒井良二展はとてもよかった。私たちのボランティア仲間もスタンプラリーに参加し必死で美術館、それから図書館に行きスタンプを集めた。それも4回行かないともらえないというので、スタンプを集めるためにすごく走った覚えがある。この展示やスタンプラリー等は確か荒井良二さんのご厚意による協力があったということを知った。そこまでいなくても、折に触れて、絵本などの企画がありましたら積極的に美術館と提携したらすてきなものになると思う。

それともう一つ、企画展のことだが、定年退職後にやはりどこにも行くところがなくて毎日のように県立図書館に運動がてら歩いて通っているという方の話を聞いた。その方は1日図書館にいるのだと思うが、どのように過ごしているのかと想像した時に、郷土資料を熱心に見る方、歴史や郷土について興味のある方が割と多いのではないかと思うので、例えば定年退職した世代にターゲットを絞って、どんどん増えると思うので、例えば郷土資料に関する講座を開いて、それをマスターした人が今度は子どもたち向け、小学校とか中学校向けにミニ講座を開くことにより、生の声で説明してもらいたいなと思ったりする。実は本宮小学校に先日行ったところ、原敬ゆかりの場所であるため、6年生が、人に尽くして見返りを求めずの精神でボランティアをしていた。また、近くに資料館があったりもする。このように身近なところで郷土の歴史に触れることができることから、郷土資料に関する講座を目的として子供たちのほうから赴いてもらうような企画があればいいと思う。郷土愛がどんどん育つように。

(菊池総括責任者) 大変すばらしいご提案をいただいた。すぐに実現できるかはわからないが、とても参考になり、また、そういうことができればいいと思う。定年退職後の方は増えているような印象があると同時に、高齢の利用者がターゲットの一つという視点は持っている。

(箱石委員) 団体貸出により、自分が所属する図書館の資料が不足している分を県立図書館からお借りして大変助かっている。県立から借りた本だと住民の方から大変人気があるのでよく利用している。そこで、この団体貸出用図書は何冊ぐらいあって、どの程度の冊数が新規・更新等で増えているものか伺いたい。

(伊東主査) 当館のホームページでは、収集する資料の選定基準というものを利用者の皆様にお知らせしている。その中で一般貸出用図書を選定する基準、それか

ら団体貸出用図書を選定する基準等をお示ししている。団体貸出用図書は、利用される方のニーズを考慮した選定をすること、それから新刊を中心とした選定をすることが大きな特徴となっている。詳しくはホームページをご覧ください。なお、市町村の皆様からのお声などについても、実際サービスの提供を担当している指定管理者の方からの意見として取り入れて選定をしているような状況になっている。例えば、過去には市町村の皆様からの声によって大活字本をまとめて収集したこともあったので、要望等あるのであれば担当に相談等いただければ検討の一つに加えることはできると思う。蔵書数については、団体用の資料は12万5,000冊強で、毎年大体1,200から1,300冊くらい増えている。

(箱石委員) 今のデータで見ると年間3万7,000ほど貸し出されている。団体貸出を利用する市町村等によってペースが違うかと思うが、所属する図書館では毎年2回ずつ借りているところ、前に借りたことがあるものを含むこともあり、選書も難しくなってきたというとも言っていたが、図書資料の充実のほうもよろしく願いたい。

ウ 「岩手県立図書館施策推進計画」に係る取組みの状況について
事務局から資料No.5-1及び5-2に基づき説明した。

【質疑】

(小山田委員) 施策推進計画の中で予算的な裏づけがなくて進まないというものが出てきたりしていて、購入に関しても当然予算と関わってくると思う。そこで、例えば今年単年度で言えば国体があったのでちょっとそちらに振り向けた等も考えられるのだが、購入の部分、あと実際の施策推進計画の取組みで未実施だった部分の予算的な今後の見通しについて伺いたい。

(平井副館長) 予算面については、災害もあり国体もあったので、県の財政もかなり厳しい状況である。ただ、図書館としては図書館の使命である、資料を充実させて、収集して、提供するということから、何としても購入費は増額してほしいと生涯学習文化課を通して財政課等にもお願いしているところだが、来年度予算も相変わらず厳しいという状況で、来年予算面の制約で実施できないができるようになるかという、そういった見通しは立てない状況にある。

エ その他

【質疑】

(澤口委員) 岩手県立図書館のことを話しているところではあるが、市町村の援助という役目もあるということから、盛岡市立図書館が今もしかするとという危機感を持っており、ぜひ助けていただきたいと思っている。とてもいい環境で、利用者も多くて、読書会というものも長く歴史がある。また私もボランティア

アでかかわっているが、ここ10年子育て支援ということから、あくまで盛岡市立図書館主催ということで親子わらべうたが続いている。ボランティアが行うのではなくて、あくまで盛岡市立図書館の主催になっているので、全国でも多分珍しいのではないかと思う。司書の方が必ず絵本を読んでくださるし全部準備をしていただいて、中身だけボランティアが行っている。そういうこともあって、すごくみんなで心配しているので、もしボランティアができることは何でもやろうという意気込みであるが、ぜひ県立図書館のほうでも助けていただきたいと思っている。

(工藤館長) 市立図書館の館長さんと職員の方が県立図書館に来て、いろいろな相談を受けたが、お金の面では支援できないけれども、財政のほうに説明するのがいろいろ大変だと言っていた。市立図書館と県立図書館の違いは何かとか、そういう細かいことはあるけれども、高松という場所に図書館があるということはすごくいいことだし、地元の人に役立っているのだと思う。そこを強調して説明していてもいいのではないかという話しをしたが、いわゆる効果とかはなかなか財政の人たちは納得できないと思うのですね。数字で目に見える何かというのは、でも図書館というのは、私個人的にはその場所にあって、その人たちが利用できる、これだけで大きな価値があるのではないのでしょうかという、余力にもならないことを言うしかできなかったのですが、何かありましたら、お金の面以外だったら支援していければいいなというように考えている。

(斎藤委員) 入館者数、利用者数が減っているということだったが、確かに人口減少率を上回るペースで減っていた。でも、岡山の例を見ればわかるように図書購入費に予算を割けば来館者は、利用者は増える。それはわかっていることですから、増やすのは簡単だということだと思う。だから、悲観することない。何か言われたら、では予算つけてよと、実績見せますからと言えば済むことなのです。県立美術館も減っている。でも、伊藤若冲やると、がんと来るのですよ。あれを自力でやろうと思ったら何億もかかって、あれは震災復興支援でできた事業なのでお金はかかりませんでしたけれども、来館者ふやすというのは、だから簡単である。お金の問題ですから、要は。そうではない、こういうほかの面で充実していくというのが、やっぱりそれこそが財産になりますので、吉丸委員もおっしゃったけれども、すばらしい実績上げていますので自信を持ってやっていただければいいかと思う。

(中尾会長) 非常にきめ細かくサービスを展開されているということで、私が見てもほかの県よりも非常に充実したサービスが展開できているのではないかなと思う。もちろん予算の面もありますけれども、まずはそういったところを細かく進めていただければいいかなと思っている。

(尾澤委員) 学校図書館協議会のお知らせも含めて話させていきたい。

一点目は、来年、12年に1度の学校図書館協議会の東北大会がここ、盛岡市で開催される。11月9日、10日の両日、ここアイーナの上階のホール等を使用しながら、開催されることになる。学校図書館に関わる方々が、東北6

県から集まることになるので、岩手県立図書館が、この建物内にあることを紹介したい。他県の方々が来館することになることについてご協力いただければと考えている。

二点目は、学校の教育活動の中で、子どもたちが見学させていただき、喜んで学校に戻ってくる。大きな図書館、書庫、蔵書数など、さまざまなものを見て喜んで帰ってきている。そして、各家庭に帰って、「こんなところを見てきたよ」「すごかったよ」ということを話し、今度は、親子で足を運んでいるということも聞いている。子どもたちの見学に際して、きめ細やかなご配慮をいただいていることに感謝するとともに、今後も、このような見学等への対応をお願いしたい。

最後に、良質な図書館サービスの提供という点でお考えいただきたいことがある。データベース、ホームページ等の言葉は、よく使われており、なじみのある言葉となっている。しかし、高齢者にとっては、それが図書館利用への壁となっているという部分がある。図書館の利用を勧めても、どうしたらよいかわからないということに対して尻込みしている状況がある。情報化に対応した便利さと合わせて、先程のコンシェルジュの話にもあったように、人の力が大きなものであると考える。人の温かみが感じられる図書館であってほしい。

今後も、人とものを大切にしたい図書館運営をお願いしたい。企画も、特別にお金のかかることをというのではなく、日常の中に様々なヒントがあることであろう。そういったことにも目を向けながら、また、アンケートにあったような、マナー、無答についての分析等をお願いし、よりよい図書館づくりをお願いしたい。公共の場である図書館であるからこそ、子どもたちにも考えさせ、マナーを身に付けさせていける大切な場所であるとも考えている。今後も応援して参りたい。

(中尾会長) 以上で本日の協議会における審議事項は全て終了いたしました。少し時間が過ぎてしまいましたけれども、進行にご協力いただきましてまことにありがとうございました。

(平井副館長) 大変ありがとうございました。

5 閉 会